

第1回の委員会（H24.6.22）から

＜今後の進め方＞

◆隣の町や県ではどうやっているかを聴く機会を持つことも大切

内輪同士の協議では、「これは無理だ」となってしまうことでも、外から見ると「まだ可能性がある」ということがある。

◆どういったプランをつくるのか具体的なイメージを提示

イメージがあった方が議論しやすい。

＜プランの内容＞

A、ハード整備や地区整備計画との関連性も考えた方がいいのでは

2-(2)-4

参画と協働と言いながら道路整備などは役所任せで進んでいる場合が多い地区整備計画も策定のルールはあるが活用ができていない。

ソフト中心の議論になりがちところで、あえてハードを取り入れた視点があってもいいかなと思う。

B、基本、ベース部分をしっかりおさえる必要がある

2-(2)-4

華やかなネットワークのイメージだけではなく、地道な静かな協働にも目を向けた方がいい。「市民が何をやるべきか？」といった議論にどうしても偏りがちだが、「行政が何をやるべきか？」を議論できたら。

C-1、縦割りの社会を横につなぐ

2-(2)-4 2-(3)-4

集落界限で連続して孤独死が起きたが、地元の住民が気付かなかったことを反省した。集落には民生委員、福祉委員、民生協力委員、愛育班がいるが、皆縦割りの仕事になっていて、行政から言われた仕事しかできていない。

今、横のつながりをつくることを目的に活動をしている。このつながりをつくっていくのが自治会の仕事でありまちづくりであると思っている。

C-2、集落の活動に何か新しいものが加わることも必要なのでは

2-(2)-4 2-(3)-4

孤独死を集落で考えることはすごくいい活動。そこに何か新しいものが加わることも必要なのではと思う。

D-1、足りない面を補い合えるシステムが考えられれば

2-(2)-4 2-(3)-4

ひとつの活動をしようとしても、実行委員会での人員も限られており、連携の在

り方のノウハウや、資金面での弱さの課題がある。

足りない面を補い合えるシステムが考えられれば、ほかの活動にも活かしていけるのではと思う。

- アドバイス ⇒① それは市民プラザの仕事でもある。この活動を見習いたいという団体からインターンを受け入れ、手伝いながら学ぶということを行えば後続を育てるという先駆的な試みになる。
- ② 子どもの手が離れかけている女性の力を活用するかが重要。童謡唱歌の会など、高齢者が集まる組織をつくった例はあるので、そういった成功例の知恵を持ち寄ることも大事。

2-(4)